

返納業務の見直し

—病棟に於ける返納器材数確認の中止を試みて—

材 料 部

○植木累美子・織田 美葉・田村 眞智

I はじめに

中央管理方式により器材管理を行っている当材料部において、各部署への器材の貸し出しは、定数量を供給し使用後返納してもらう方法を取り入れている。このため器材返納時には返納器材数の確認及び伝票記載の業務を返納部署が行うこととなる。

しかし以前から、病棟に於けるこれらの業務に時間がかかると意見が出されていた事もあり、今回、病棟看護婦の返納に関する業務量軽減を目的に、返納器材数確認と返納伝票記入業務の省略を試みた。また、病棟の現状再確認と我々の行う試行の評価を得るためにも、病棟の返納に関する業務についての現状調査（アンケート調査）をも合わせて行ったので報告する。

II 研究方法

1. 第1回（試行前）アンケート調査：平成4年6月29日～平成4年7月3日
2. 返納器材数確認と返納伝票記載業務の省略試行：平成4年7月13日～平成4年8月14日

実施内容：資料1（おねがいの文章）参照

※返納器材数確認は、看護婦・看護助手で計2回行う。

3. 第2回（試行後）アンケート調査：平成4年8月14日～平成4年8月21日

III 仮 説

方法1でアンケート調査を行った後、以下2項目について仮説を設定した。

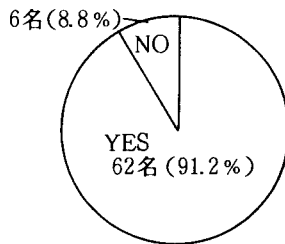
1. 病棟看護婦の返納に関する業務にかかわる時間が削減される。
2. 病棟に於いて返納時の数量チェックを省略することにより、不足器材が増加する。

IV 考 察

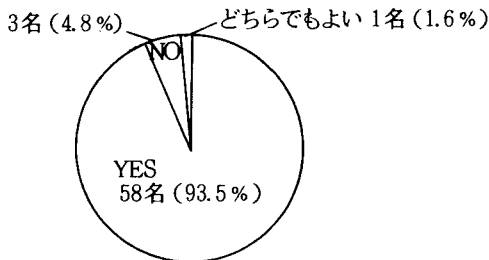
方法 1. 返納に関する業務についてのアンケート (H 4. 6. 29 配布) 結果

配布数 (部)	回収数 (部)	回収率 (%)
76	68	89.5

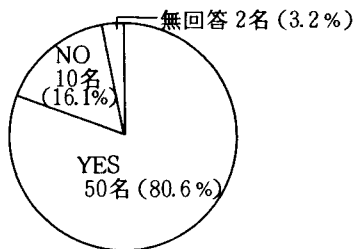
問 I あなたは器材返納にかかわる業務に携わっていますか。



問 II 返納器材数確認と返納伝票記入業務がなくなれば良いと思いますか。(62名=100%)



問 III 器材返納に関する業務に時間をとられすぎていると思いますか。(62名=100%)



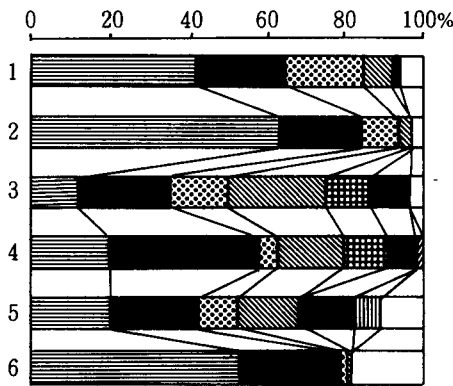
問 IV 器材返納に関する業務の中で何にどのくらい時間がかかっていますか。(62名=100%)

1. 器材をカートに並べる
2. 感染症器材をトスロンバックに入れ感染症名・器材名・数を記入する。
3. 返納定数の使用数・未使用数をチェックし返納伝票に記入する

4. 病棟定数の残数チェックをし返納伝票に記入する
5. 返納器材の不足物品を探す
6. カートを材料部へ搬送する

所要時間 対象項目	1～5分	6～10分	11～15分	16～20分	21～25分	26～30分	31～45分	46～60分	無回答
1	26名(41.9%)	14名(22.6%)	12名(19.4%)	5名(8.1%)	1名(1.6%)				4名(6.5%)
2	39名(62.9%)	13名(21.0%)	6名(9.7%)	2名(3.2%)					2名(3.2%)
3	8名(12.9%)	15名(24.2%)	9名(14.5%)	16名(25.8%)	7名(11.3%)	5名(8.1%)			2名(3.2%)
4	13名(21.0%)	24名(38.7%)	3名(4.8%)	10名(16.1%)	5名(8.1%)	6名(9.7%)	1名(1.6%)		
5	13名(21.0%)	14名(22.6%)	6名(9.7%)	10名(16.1%)		9名(14.5%)		4名(6.5%)	6名(9.7%)
6	33名(53.2%)	16名(25.8%)	1名(1.6%)	1名(1.6%)					11名(17.7%)

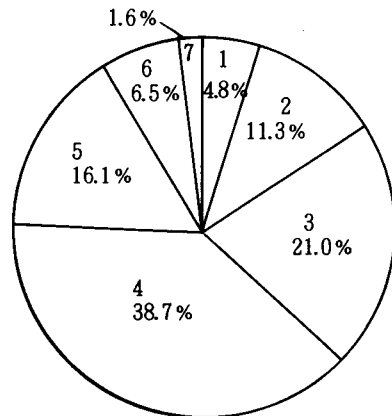
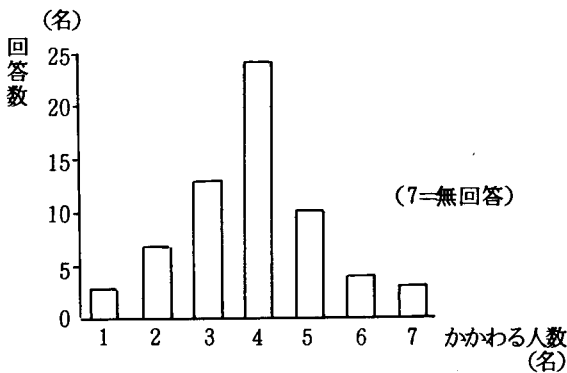
<対象項目と所要時間の割合>



総各所要時間÷総回答数=平均

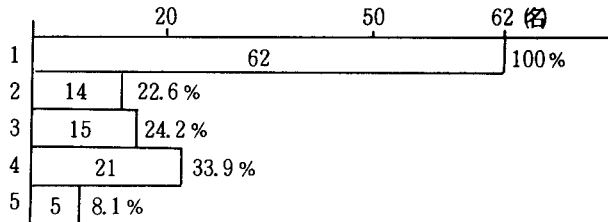
対象項目	平均所要時間
1	9. 8分
2	6. 9分
3	1 6. 5分
4	1 4. 7分
5	1 7. 9分
6	6. 3分

問V 1回の返納業務が総て終了するには何人かかかりますか。(62名=100%)



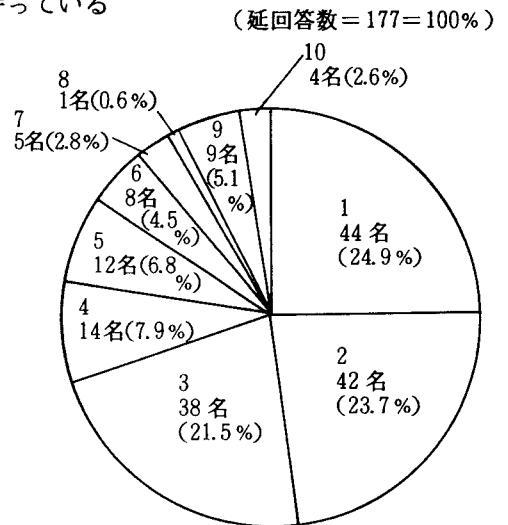
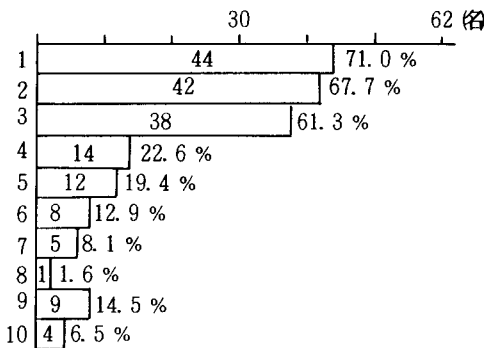
問Ⅵ 器材返納に関する業務を行うときに困ることがありますか。(62名=100%)

1. 返納器材の不足物品がある
2. 器材を使用中のため、返納器材数を確認できない
3. 返納器材数を確認後にその器材を使用される
4. 返納器材数を確認している途中で他の仕事が入り、中断するのでわからなくなる
5. その他

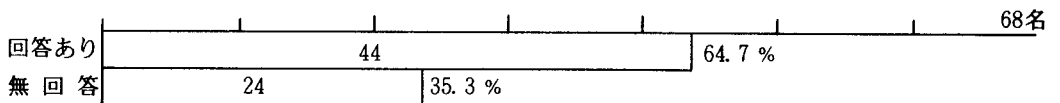


問Ⅶ 返納器材の不足物品はどこで見つかりますか。(62名=100%)

1. 病室
2. 包交車
3. 処置室
4. 汚物処理室
5. ごみ箱
6. 通常器材洗浄に使用していない流し台
7. 棚
8. 床
9. Dr. が持っている
10. その他

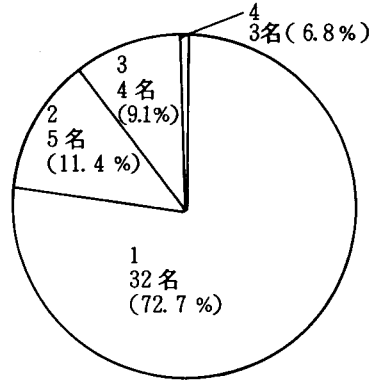
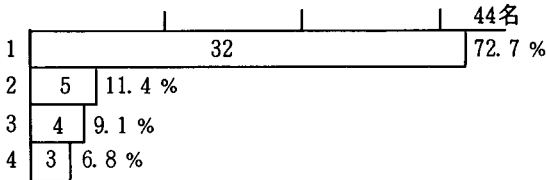


問Ⅷ 病棟での返納器材数確認と伝票記入を除いた場合何が問題になるとお思いますか。(68名=100%)



<回答の内訳> (44名=100%)

1. 器材数(主に不足物品・紛失物品)に対する問題
2. 材料部だけで数量チェックする事に対する問題
3. 問題はない。楽になる
4. 使用数がはっきりしなくなり次回請求数が決定しにくくなるという問題



方法 2. 試行期間中の結果について

払い出し器材の中で対象部署に共通しており、さらに最も取り扱い数の多い外科鉗子(23cm)について、払い出し数に対する返納数の変動を、試行期間と伝票使用期間とで比較した。

<外科鉗子 23cm>

伝票使用期間と試行期間の払い出し数に対する返納数の変動

部署	期 間	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
A	伝票使用期間		+23	-23	-1	+2								-8	+5	+3	-1	-1			+1			-1	+1		
	試行期間		+12	-13		-2	-2	-11	+16		+1		+50	-40				+1	-1	-8	+8			-2	+1		+2

部署	期 間	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
B	伝票使用期間				+1	-1	+20	-20						-20	+20					-2	+4	-2					
	試行期間		+5	-19	-1					-4	+4				-2	+1	-2	+2	-20	+17	+1			+2		-1	+1

部署	期 間	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
C	伝票使用期間		-5		+5					+1	-2		+1				-1		-1				+2				
	試行期間		-1	-3	+1	-6	+11					-1	+2	-1			+1		-3	-2				+1	-1		

部署	期 間	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
D	伝票使用期間		+2	-1	-1							-10	+10					-15	+15					-20		+20		
	試行期間		-2	+1	+1		-3	+2	-1	-5	+6	-2		+21	-16	-1	+1	-5	-2	+5			-20	-1	+1	+19		-1

{(□)}→払い出し数=返納数 (+)→払い出し数より多く返納された数 (-)→払い出し数より少なく返納された数 }

これらの表から、下記のことが明らかである。

1) (□)の日数比較(払い出し数=返納数)

病棟	A	B	C	D	合計
伝票使用期間	13	16	17	16	62
試行期間	8	9	12	3	32

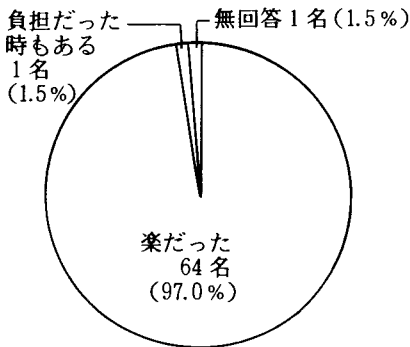
2) 伝票使用期間では2～4日で(+)及び(-)が解決していた(表中一で示した。)

方法3. 返納に関する業務についてのアンケート Part 2 (H 4.8.14配布)結果

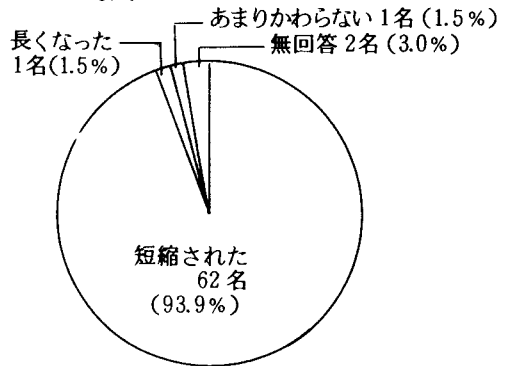
配布数(部)	回収数(部)	回収率(%)
77	66	83.5

問1 この方法を試みてどうでしたか。(66名=100%)

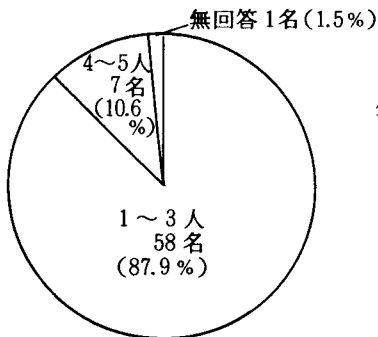
1. 気分的に



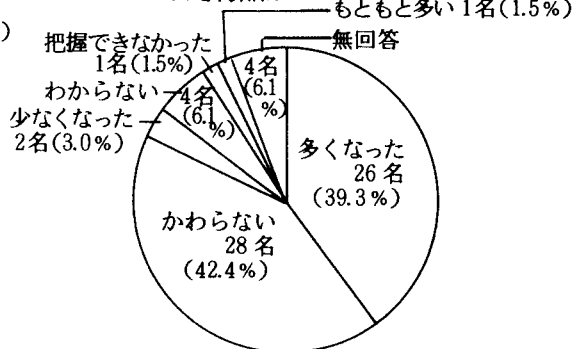
2. 時間は



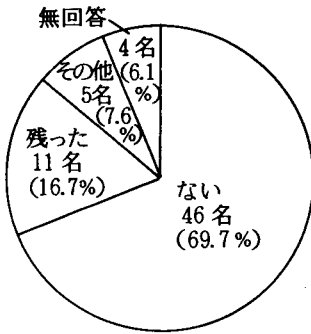
3. かかわる人数の平均



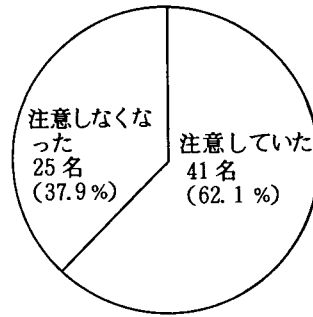
4. 不足物品が



5. 材料部のチェックに不満が

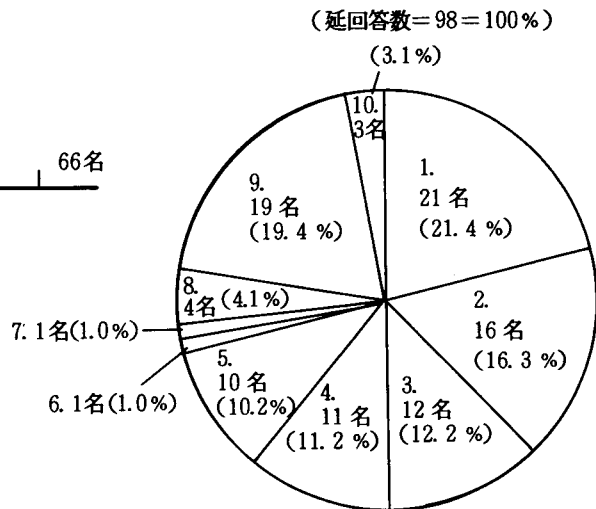
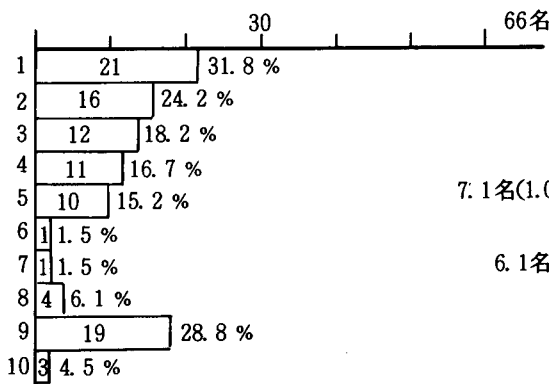


6. 部署残数に対して



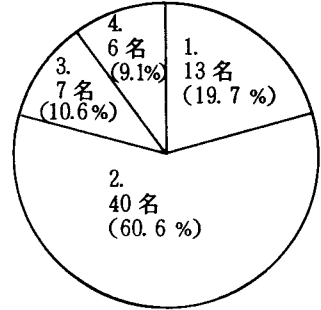
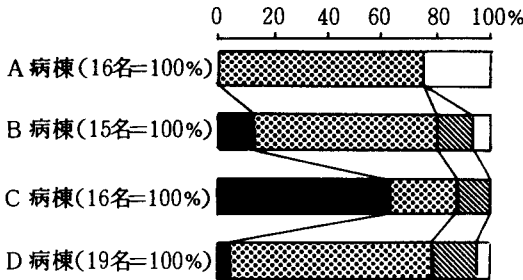
問Ⅱ 今回の試行中に困った事がありましたか。(66名=100%)

1. 不足器材名・数が分かりにくくなった
2. 使用数が把握しにくかった
3. 不足器材が多くなった
4. 紛失する器材が多くなった
5. 次回請求数が決定しにくかった
6. 紛失してはいけないという意識が薄くなった
7. 器材の臨時請求・緊急請求が多くなった
8. 特にない
9. 無回答
10. その他

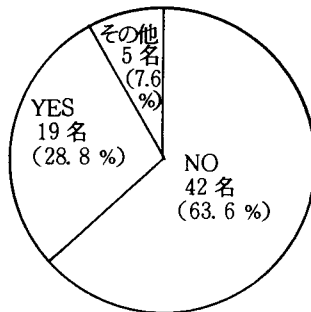


問Ⅲ 不足器材にはどう対処していましたか。(66名=100%)

1. 伝票記入はしなかったが、毎日数量チェックをしていたので、その時点で探した ■
2. 材料部から返納登録表がもどった時点で探した ▨
3. その他 ▩
4. 無回答 □



問Ⅳ 試行の結果、部署での返納器材数確認は必要だと思いましたか。(66名=100%)



V 考 察

仮説1について

既にカート搬送など一部の業務は、看護助手の業務としている病棟が多いが、試行前のアンケート結果(方法1. 問Ⅰ)からわかるように看護婦の91.2%は、返納に関する業務に携わっている。方法1. 問Ⅳの1～6に今回の対象となる返納に関する業務内容を列挙し、これらに費やす時間を調べた結果、1～6の業務を終了するための平均所要時間は、72分であった。これは、8時間勤務の中の15%であり、大きな割合を占める。この72分の中で今回の試行によって問Ⅳの2. 6を除いた58分が削減される。試行後のアンケート結果(方法3. 問Ⅰ)でも93.9%が時間が短縮されたと答えている。これは、試行が時間削減に効果的であったことを示している。さらに、かかわる人数についても4人以上61.3%(方法1. 問Ⅴ)から3人以下87.9%(方法3. 問Ⅰ)と減少し、また気分的に楽だった97%であったことから、

物理的側面及び心理的側面への軽減も成されたと考える。

仮説 2.について

試行前のアンケート結果(方法 1. 問 VIII)から、返納器材数の確認及び伝票記載を省略することによる問題は、圧倒的に不足器材に関することであり、返納器材が不足しているかどうかの判断ができなくなる、不足器材が増加するといった意見がほとんどを占めていた。

試行期間中も従来どおりに、不足器材名・数を材料返納登録表に明示していたが、試行中に困ったこと(方法 3. 問 II)として、不足器材名・数が分かりにくくなったが最も多い。これは方法 2 の表からわかるように、払い出し数=返納数であった日が、伝票使用期間では 62%だったが、試行期間中 32%となった。また伝票使用期間では、2~4日 で払い出し数に対する返納数の清算ができていたが、試行期間では、返納数にばらつきがあり、清算できるまでの日数が延長したり、清算できない場合があった。これらのことにより不足器材名・数が分かりにくくなったと考える。返納数を確認しないことにより、以上のような現象がおこった。そこで、伝票に記入しなくても返納器材数を確認していた(方法 3. 問 III)と回答した割合が 62.5%を占める C 病棟についてみると、試行中困ったこと(方法 3. 問 II)では、不足器材名・数が分かりにくくなったは、4 病棟の合計を 100%とした場合 19%と少ない。これは、払い出し数=返納数(方法 2)であった日が伝票使用期間 17日、試行期間 12日とあまり変化がなく、試行前と同じように短期間で払い出し数に対する返納数の清算ができていた為と考える。

以上のことから、不足器材数が分かりにくくなる原因を除くには、返納器材数を確認することが必要であると思われる。

不足器材にどう対処していたか(方法 3. 問 III)では、返納登録表が戻った時点で探した人が多かった。返納登録表の送付は 14時~16時に行われ、この時点では、時間が経過していることや勤務者が交替していることもあり、不足器材が見付かりやすい場所(方法 1. 問 VII)である病室・包交車・処置室では、昨日の不足分か本日の使用分かわかりにくく、ごみ箱や医師が持っていた場合は、見付かりにくいと考えられる。この状況も、器材の変動がわかりにくくなることに関係していると思われる。

試行前のアンケート結果(方法 1. 問 VIII)では、約 60%の人が不足器材が多くなることを問題にしていたが、試行後のアンケート結果(方法 3. 問 I)では、不足器材数が変わらない 42.4%、不足物品が多くなった 39.3%であった。変わらないと回答した人は、不足器材数の増加が、わずかであったため、変化なしと考え、多いと回答した人は、伝票使用時にも

増して不足器材に対して注意力が高くなった為と考える。

これは、不足物品が多くなった(方法3. 問I)と答えた割合が最も多いC病棟において、部署残数に注意していたと答えた人が75%と高くなっている事から予測した。

今回は、5週間という短い期間の試行であった為、不足器材数の増加はわずかであった。しかし、不足器材数がわかりにくくなった事や、払い出し数に対する返納数の清算できる日数が延長した事から、今後この方法を続けていくと不足器材数が増加すると思われる。

今後の方向として、病棟での返納器材数確認は必要かの問い(方法3. 問IV)に対して63.6%が、必要ないと回答している。試行前のアンケートの、返納器材数確認と伝票記入業務がなくなればよい(方法1. 問II)93.5%と比較すると、約30%の人は試行後返納器材数確認が必要と考えたことになる。これは、試行により不足器材の増加や不足器材名・数が分かりにくくなったことによると思われる。部署での返納器材数確認が必要といった意見の中には、週1回程度、或は不明・不足等が発生した時に残数確認を行うという意見と、まとめて何日分かの残数確認を行うのなら毎日確認する方が良いとの意見があった。これは、部署によって器材請求数、器材使用状況、器材管理方法などが一律でないためと思われる。

試行期間中の材料部に於ける業務変化は、返納器材数の確認を2回にしたことによる返納器材数確認に要する時間の延長であった。試行対象部署は、12病棟中4病棟のみであったが、通常1.5～2倍の時間を必要とした。今後、全病棟を対象に考えるならば、返納器材数確認に要する時間の延長に対する材料部の対処方法を考えなければならない。

VI おわりに

今回の試行の結果、病棟看護婦の返納に関する業務にかかわる時間を削減できたことは大きな成果であったが、器材の変動状況がわかりにくくなるという問題を残した。このことについては、今後の課題となるところである。

【謝 辞】

今回の研究をまとめるにあたり、ご協力戴きました各病棟看護婦の皆様に感謝致します。

参 考 文 献

- 1) 井部俊子他：物品管理，Nursing Today，10月号，日本看護協会出版会，1991。
- 2) 梅津勝男：ナースを物品管理から解放するには，看護展望，Vol. 14，No. 13，メヂカル

フレンド社, 1989.

- 3) 後藤保郎：物品管理システム化の経済効果, 病院, 医学書院, Vol. 48, No. 6, 1989.
- 4) 中野 明：新しい物品管理の流れ, 看護管理, Vol. 2, No. 3, 1992.
- 5) 菅田勝也他：病棟看護業務に含まれる他職種分担可能業務の抽出と分析, 看護管理, Vol. 1, No. 6, 1991.
- 6) 石井清子他：日勤における看護業務量に関する研究, 第20回看護研究学会集録, 日本看護協会出版部, 1971.
- 7) 大久保昭子他：業務分析による日勤業務の一考察, 第21回看護研究学会集録, 日本看護協会出版部, 1972.
- 8) 中野正孝：看護研究のための統計学入門, JIN スペシャル, 医学書院, No. 19, 1991.

【資料1】

平成4年7月8日

病棟看護婦 各位

材料部看護婦一同

お　ね　が　い

先日のアンケート結果で、やはり病棟に於ける返納器材数確認と返納伝票記入業務がなくなれば良いとのご意見を多数戴きましたので、下記の予定で実際に行ってみたいと思います。

実施期間：7月13日(月)～8月14日(金)

- 実施内容：① 器材使用後は、消毒又は洗浄・乾燥後、取り出したカートの上に戻しておいて下さい。鑷子は、備え付けのカゴの中に、その都度入れてもらって構いません。
- ② 感染症に使用した器材は、消毒・洗浄・乾燥後、その都度、トスロンバッグに入れ、内容物名・数・感染症名を記入してから、カートに戻して下さい。
- ③ 病棟看護婦は、返納器材数確認と返納伝票記入業務を行わず、カートを返納して下さい。
- ④ 材料部だけで、返納器材数確認を行い、返納入力後、材料返納登録表を送ります。
- ⑤ 従来通り、材料返納登録表に、不足物品があれば、記載しておきます。